広報 妻籍信宿



公益財団法人妻籠を愛する会 平成25年10月20日発行

No.108



(大妻籠 撮影者:平野かほり)

提灯の灯りに長持ち照らされて 「へっちょう へちょ」と山路越え来る

かつて長持ちに嫁入り道具を入れてお嫁に来た時期には道中を長持ち歌を歌い担いできた。へっちょうというのはゆっくり行けという意味で急ぐ時は、へっ、へと言ったようです。

藤原 勝

第36回全国町並みゼミ倉敷大会 2013.9.20~22

理事長 小林俊彦

第36回・全国町並みゼミ・倉敷大会が9月20・21・22日に倉敷で開催され妻籠から6名参加した。来年の開催地は、九州鹿島・嬉野である。「つながる地域文化の伝統と創造~備中の風土力の発信~」をテーマに、倉敷市芸文館で開会。各地からの報告があり、その後に特別対談「保存の始まり・今・これから」と題して、昭和40年頃から50年にかけて集落町並保存運動に参画した思い出を、当時の倉敷市助役であった室山貴義さんと対談。

21日は、分科会となって、備中の倉敷・玉島・高梁・ 浅口 (鴨方)・矢掛の各地に分散。私は、スケジュール に従って矢掛宿に参加。本陣・脇本陣が完全に残って いる宿場はここだけという。山陽街道沿いに老舗が 数多く残り、営業していた。分科会のテーマ「歴史的 町並みを活かした賑わいのまちづくり〜道・にぎわ い・町屋をつなぐ〜」に準拠して、コーディネータ・岡 山大学江面嗣人教授。話題提供に私。パネリストに因 州鹿野小林清、九州八女福島北島力、矢掛宿藤原令 三が登壇、各地事例報告をおこなった。

倉敷市外から矢掛宿までの間の山陽道の沿線の 風景は、カリフォルニア風景と揶揄される国内各地 の街道沿線風景と異なり、屋外広告看板が極めて少 なく、山陽道・備中の風景であったことが好感的に印 象に残っている。



南木曽町教育委員会 上田陽平

町並み保存を担当する立場から9月20日から3日間開催された第36回全国町並みゼミ倉敷大会へ参加させていただきました。

町並みゼミは伝統のある大会で実際にまちなみ保存の活動をしている人たちが主となり開催しているイベントなのでとても活気があります。各地からの報告ではそれぞれ町並みへの思いや熱意が表れ、また交流会、夜なべ談義でもそれぞれが名刺交換を行い町並み保存について熱く語っていました。私も名

刺交換を必死で行い大勢の町並み保存に携わる方 たちと知り合いになることができました。今後の町づくりに活かしていきたいと思います。

分科会では同じ宿場町ということで第7分科会会場の矢掛宿を希望し参加しました。矢掛宿は旧山陽道の18番目の宿場町で、土蔵造りの建物が多く点在しています。本陣と脇本陣が共に当時から残されており両方が国の重要文化財であるのは全国でもここだけです。妻籠宿の本陣、脇本陣を管理する私にとって大変興味のあるものでした。しかし、歴史的建造物が多く残る矢掛宿ですが、所々で近代的な建物に建て替えられたものや取り壊されてしまう家も多くあることも事実です。住民一丸となって重伝建地区指定に向けて頑張ってほしいと思います。宿場内を見定していておどろいたのは宿場の各ポイントで地元矢掛の小・中・高の生徒がグループになり宿場の魅力や活動などを紹介してくれたことです。



〈第7分科会 矢掛宿〉

矢掛では、ふるさとを愛する心を育むため、小学生、中学生、高校生が一体となり矢掛の町並みの魅力や歴史・文化の学習に取り組んでいるそうです。この大会に向けて取り組み一生懸命自分たちの住む町を紹介しながら私たちを歓迎してくれるおもてなしにとても感動しました。

まだまだ報告したいことがたくさんありますが 色々な人たちと交流するなかでやはり妻籠宿は保存 の先駆地であり一目おかれているということ、歴史 ある町並みをいつまでも残していけるというすばら しさを実感することができました。

あっと言う間の三日間でしたが天候にも恵まれ充 実した三日間を過ごすことができました。是非、妻籠 宿からも多くの方に参加していただき外からの妻籠 宿を体感してほしと思います。



〈第4分科会 倉敷市玉島〉



〈大会1日目歓迎交流会〉



〈閉会式〉

観光の現状と今後の課題 事籠観光協会会長 磯 村 正 義

猛暑の続いた夏も二百十日を過ぎ、台風シーズンとなり、自然災害に気をつけなければならない季節となりました。さて、観光協会も最大のイベント火まつりは8月24日天候にも恵まれ幻想的な松明行列と神事、そして伝統芸能が滞りなく終了しました。関係者と役員・会員の御協力に感謝申し上げます。

今年の夏のイベント「伝統芸能の夕べ」は2回となりました。8月の第1土曜日は「かなかぬち」の野外劇場開催とダブり休会とし、もう1回は出演者の都合等で2日間でした。このイベントにその都度アンケートを取りましたところ、大変好評でした。その一部を御紹介します。「陣屋太鼓はとても素晴らしかった。」

「昔も今も地元の方がフレンドリーで妻籠は大好 き。」「祭りの伝統を大切に続けてほしい。」「木曽踊 りに一般客も参加でき良かった。」「サイトロサシと ても生き生きしていて、とても好きでした。」そのほ か感動した声が寄せられていますが、紙面の関係で 割愛し、9月までの観光客の動向を見ますと駐車場 の車は前年比で多くなっています。一方馬籠と妻籠 間のハイカーは外国人が過去最高を記録していま す。国内の観光客は猛暑と高齢化の中でやや減少傾 向となっています。日本の人口は少子・高齢化で今後 は少なくなり、外国人の観光客に頼る傾向になると 思います。そのうえで、今後の方向を考えますと、国 内外への観光客への「おもてなし」とサービスでリ ピーターを増やす努力をし、シーズンオフでも交替 で店を開け、お客様を迎える努力が求められていま す。次に心配なことは、業者が高齢化し、減少してい ることです。このままでは観光協会の維持も困難に なります。何としてもまず人口を増やす対策を考え、 住民と自治体が一体となってこの難問を解決し、限 界集落への道に歯止めをかける力になれるよう努め たいと思います。



〈伝統芸能の夕べ:木曽踊り〉



〈7月4日雨の中での中山道整備作業〉

妻籠宿火まつりと伝統芸能の夕べ

妻籠宿火まつりに参加して

妻籠愛友会 藤原崇道

朝夕に秋の気配を感じる8月後半の宿場。夏の最後のイベントでもある「妻籠宿火まつり」に参加させて頂きました。

私自身、火まつりへの参加は今回が初めてでした。 私の中で火まつりのイメージは、かつて城山の頂上 でいろいろな出店が並び、本格的な打ち上げ花火を 上げていた頃のことでした。現在のふれあい館前で 行なう火まつりは、まだ拝見したことがなく、どのよ うにお祭りが繰り広げられていくのかとても興味が ありました。

夕闇迫る宿場内からホラ貝の音がこだまし、どこからともなく松明行列が現れ、本陣前に2つの松明が揃う。神事の始まりとともに、本陣前のかがり火が点火され、勢いよく燃え盛る。余計な灯りが一切ない妻籠宿に、まわりの観光客や建物が一層赤々と照らしだされる神秘的な雰囲気。



神事が無事に終わり、神妙な気持ちの中、伝統芸能の夕べが始まりました。このイベントのために足を運んでくださった観光客に対し、火まつりを最後まで楽しんでもらいたいという気持ちで一生懸命「さいとろさし」を披露させてもらいました。陣屋太鼓の皆さんもおそらく同じ気持ちで太鼓を打ち、舞い踊る。いつも以上に盛大だったと思います。

今年は例年以上に暑さがこたえる、本当に雨の少ない夏となりました。妻籠宿も例外ではありませんが、来年も天候に恵まれ、より沢山の観光客が来ていただけることを願うばかりです。



妻籠陣屋太鼓

妻籠陣屋太鼓 原 信之

高校を卒業と共に、生まれ育った妻籠宿から約四年間、離れていました。滋賀県にいた頃、年配の方々に(どこの出身?)と聞かれ、(妻籠宿です。)と答えると、(いい所だね一)と皆にほめられ、嬉しかった思い出があります。あまりにも近すぎて、気が付かない事も、少し離れて見てみると、とても素晴らしい事に気が付く時があります。私が地元を好きになった、そんな瞬間でした。

私が妻籠宿に帰って来て、まもなく妻籠陣屋太鼓のメンバーに入りました。見るのも触るのも初めてだった私ですが、今では、もう17年続いています。お祭りやイベントではいつも呼ばれ、保育園や小学校でも、毎年やらせて頂いています。

夏に行われる伝統芸能の夕べや、火まつりも、毎年、恒例になり、私も楽しみに、そして、練習の励みにもなっています。去年は8人のメンバーでやらせて頂きましたが、今年は5人という少ない人数で、とても不安な気持ちの中、皆でがんばりました。曲と曲の間では、やっと鳴る様になった私の篠笛や、昔から伝わる唄も唄わせて頂き、ほら貝も吹いてみました。地元の方々にも、飽きないで楽しんでもらえる様に、毎年、少しずつアレンジしたり、新曲をとりいれたり。またこれから、来年に向けてがんばりたいと思います。皆さんに、楽しみにして頂けると嬉しいです。





妻籠地区敬老会

2013年9月8日(日)

恋野 横山麻衣

私は3年前に、敬老会の実行委員の方から声をかけていただき、その年から毎回出演させていただいています。

妻籠に住むようになって丸6年になります。結婚を機に実家がある愛知県春日井市から移住してきました。当初は主人以外に知人がほとんどいなかったこの地で、数年後に敬老会の出演に声をかけていただける様になるだなんて、思ってもいなかったことなのでとても光栄に思います。

でも、私は歌を歌うことが好きなだけで、正直歌が上手なわけではありません。毎年ステージに立つ時には自信のなさからくる緊張で足はガクガクですし、マイクを持つ手もブルブルとふるえています。今年は特に本番前日から風邪気味のようで、のどが痛くて声が出しづらく、朝からのど飴やはちみつをなめて挑んだという状態でした。その歌声は本当にひどくて人様にお聞かせするようなものではありませんでした。本当に申し訳なく反省しています。ですが、皆さんは優しい方ばかりで「よかったよ」とか「また聞かせてね」など言っていただきました。その皆さんからの声かけに私は本当に救われました。この場をお借りしてお礼をいわせていただきたいと思います。ありがとうございました。



〈熱唱する麻衣さん〉

また来年ももし声をかけていただけるようでしたら、体調を整えて練習ももっと頑張りたいと思っています。

普段あまり交流のない方々と一緒に時間を過ごす ことのできるこの素敵な敬老会がこれからもずっと 続き、何十年後かには招待していただけるよう、私も いつまでも健康でいたいなと思っています。



〈小学生のダンス〉



〈可愛らしい保育園児〉



〈詩舞:荒城の月〉



〈敬老会を陰で支える実行委員さん〉

妻籠分館納涼会について

妻籠分館長 鈴木竜 行

公民館妻籠分館では、今年も7月28日に納涼会を行いました。当初は、青少年育成会の行事として小中学生を対象に行っていましたが、2年ほど前に、育成会が分館の組織の中に組み込まれたことにより、分館の行事として広く住民の皆さんにも参加していただけるような納涼会にするべく、役員で知恵を絞って考えた結果、今年はひとつ、目玉として流しそうめんをやってみることにしました。

幸いにも、和智埜神社の脇の竹やぶから竹をいただけることになり、切り出し作業から準備は始まりました。竹を切り出したのはよいのですが、ここから先は面倒な作業が続きます。

先ずは竹を真ん中から真っ二つに割っていきます。鉈を上手に使って慎重にやらないと均等に割れません。どうにか均等に割れた竹を今度は中の節目をきれいにくりぬいていきます。この作業をきれいに、丁寧にやらないとそうめんが止まってしまいます。

面倒な作業をなんとかこなし、ようやく10メートルくらいの竹の水路が2本完成しました。分館の台所から流すように、角度を調節しながら土台を設置していきました。みんなでああでもない、こうでもないといいながら作業するのもそれはそれでなかなか楽しいものです。

悪戦苦闘の結果、台所の流し台からすべてが行える、実に機能的な素晴らしい流しそうめんが完成しました。さあ、果たしてそうめんはうまく流れるのでしょうか…。

若干の不安を抱えつつ、おもむろにそうめんを流しました。するとどうでしょう、真っ白にキラキラ輝きながら水面を優雅に流れていくではありませんか。すっとすくって味見をしてみました。こんな美味しいそうめんを食べたのは生れて初めてでした。流しそうめんといえば、夏の風物詩として誰もが知っている楽しみなのですが、初めて体験した私としては、まさにアメージングな出来事でした。

準備段階でこれだけ感動しているのですから、本 番では大成功しないわけがありませんでした。たく さんの人たちに来ていただいて、大盛況で終わらせ ることができました。今後とも私たちは住民の皆さんが楽しんでいただけるようにさまざまな挑戦をしていこうと思っています。

今後とも妻籠分館をよろしくお願いいたします。



文化文政風俗絵巻之行列が 近づきました!

今年は46回日を数えます。

いつもどおり、11月23日に開催します。今年は土曜日です。晴れるといいですね。

詳細は実行委員会が進めていきますが、基本は変わりません。皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

妻籠地区の方は区長さんから参加依頼がありますので積極的に参加してください。外部参加者の受付も行っています。昨年参加された方には御案内いたしますが、今年こそ、と思われる方はお気軽に事務局までお尋ねください。

事務局TEL: 0264 (57) 3513



第45回文化文政風俗絵巻之行列風景

場 宿 暦

7月 1日:馬籠妻籠連絡協議会総会(観協)

4日:中山道整備作業(観協)

5日:信毎140周年「感謝の集い」(長野・常務)

8日:案内人の会学習会(8名)

10日:地・宝・人ネット シンポジウム (東京・常務)

17日: 理事会

20日:広報 [妻籠宿] 107号発行、BS日テレ撮影

22日:統制委員会

23日: 労働安全大会(南木曽会館)、和智埜神社

例祭 (~24日)

26日:名工土木城山草刈(17年目)



8月 1日:多治見砂防事務所地蔵沢視察

2日:静岡放送撮影

3日:鳥取市「いんしゅう鹿野まちづくり協議 会」小林氏来宿

5日:都留市リニア視察(常務)

6日:行政との懇談会(町長·財団理事·監事)

7日:たなばた飾り(観協)

10日:伝統芸能の夕べ(観協)

20日:統制委員会

21日:広報部会

22日:バイオマス説明会(蘭分館・常務)

24日:妻籠宿火まつり

9月 1日:テレビ東京撮影

8日:妻籠地区敬老会

13日:観協役員会

19日:与川観月会、鷺娘稲刈り

20日:第36回全国町並みゼミ倉敷大会

(~22日·6名参加)

24日:統制委員会

26・27日: 妻籠宿案内人の会研修旅行(鎌倉)

28日:BS朝日撮影(常務)

29日:大井水清掃作業

30日:広報部会

統制委員会審議事項

7月22日

·仮設LED情報板設置(中日本高速道路:事前着工)

1件 ·塀修繕(光徳寺) 1件 1件 ・光ケーブル張替工事(中電) ・群状択伐(関電:7か所) 1件 ・掲示板修繕(愛する会:6か所) 1件 ・その他: 「住宅新築」変更申請 保留

8月20日

・コンクリート柱・変圧器・電灯引込線新設(中電) 1件 ・配電線設備の保安伐採(中電:恋野他) 2件 ·群状択伐(関電:大妻籠他) 3件 ・送電線路の巡視路修繕工事(関電) 1件 ・その他

9月24日

·携帯電話基地局の設備追加·交換(KDDI:大妻籠)

1件 ·町営第1駐車場管理棟修理(町観光) 1件 1件 ・鯉ヶ岩水路改良工事(町農林) ·水路石蓋取換(教委:人馬会所前) 1件 ・車庫及び庇の塗装工事(中町) 1件 ·動力引込線新設(中電:大妻籠) 1件 ·平成25年度重伝建事業(寺下) 1件 ・残土処理(仮置場) (大宗土建:下り谷) 1件 ·住居改修工事(尾又) 1件 1件 · 屋根改修丁事(渡島) ·群状択伐(関電:川向) 1件 ·鉄柱支線取付点変更工事(関電:妻籠発電所) 1件



発行:公益財団法人妻籠を愛する会 〒399-5302長野県木曽郡南木曽町吾妻2159-2 TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

妻籠宿案内人の会鎌倉先進地視察研修 2013年9月26・27日

妻籠宿案内人の会 松瀬康子

11名の会員を乗せ、バスはいざ鎌倉へと出立、大変穏やかな初秋の9月26・27日でした。暑くもなく、寒くもなく、研修旅行に行ってきました。

いつもは旅行者をお迎えする側ですが、立場が変わると、不思議な感じがします。旅行者とは勝手なものかもしれません。都合のいいとこ取りです。そこに生活する人のことも考えながら「お邪魔させていただきます」という心構えが必要だと思った次第です。

今回は会長藤原宗三さんの御尽力で、鎌倉在住の 稲田明子氏の御配慮による、多くの特別待遇をいた だきました。

鎌倉五山の筆頭「建長寺」の三門に登らせていただき、若い林さんという僧侶からお話を伺うことができました。鎌倉に国の政治が置かれ、「いざ鎌倉へ」と時の政治家たちは召集されたわけですが、時は室町そして安土そして江戸へと変わってゆきました。いかに政治と寺とが密接に関わっていたのかと思うところです。



〈建長寺三門にて





-大仏殿入り口で待合せ 案内人:猪熊さん、稲田さん

鶴岡八幡宮の大銀杏は新しい木に変わり、平成の時代のニュースが未来の方々の歴史語りの中に積み上げられてゆきます。その大銀杏の前には静御前が舞ったという舞台があり、ここには、居ないはずの女性たち、北条政子・静御前・そして義仲の子義高の妻大姫、歴史上の女性たちが偲ばれます。今から800年以上も前の出来事なのに舞台を見ていると、そんな気配が感じられるのです。今は本当に有難い時代です。古の人々の御苦労を今一度学ばせて頂こうと思った研修旅行となりました。





〈長谷寺は土谷さんに案内していただきました〉



↑26日夜は薩摩琵琶奏者:坂 麗水さんの演奏で「静」を聴か せていただきました。